

あまうち

舞鶴市立余内小学校

平成30年12月21日発行

(本年度10号)



校区教育目標 自らの未来を切り拓く「生きる力」を身に付けた 次代を担う児童生徒の育成

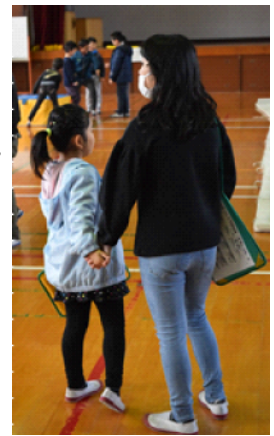
2学期を振り返って…

夏休みには、緑の葉に覆われていた銀杏の木も、2学期の間に、実を付け、葉を黄色に変え、今ではすっかりその葉も落としてしまいました。姿を変える木々に、自然の息吹を身近に感じることもできた、2学期でした。

季節が二つ通り過ぎた長い2学期でしたが、77日間、子どもたちは元気に登校し、本日、終業式を迎えました。子どもたちを温かく送り出していたいただいた保護者の皆様や、通学路で子どもたちにやさしく声をかけていただいたスクールガードボランティアの皆様をはじめ、地域の皆様感謝いたします。

2学期を振り返ると、子どもたちは、学年に応じた教科学習や体験学習などの取組を通して、多くのことを経験し、学びました。また、運動会やマラソン大会、合同音楽会や駅伝大会など多くの行事の中で、余内っ子の負けじ魂を発揮し、つながりを育み、実り多い2学期を過ごすことができました。

先日、「ほしみずフェスタ」を実施しました。この「ほしみずフェスタ」は、本校が大切にしている異年齢集団活動の一環として行っている行事の一つです。本校では、異年齢のグループ「ほしみず班」をつくって活動しています。「ほしみずフェスタ」では、各班でゲームコーナーを企画運営します。6年生が担当の教師と打ち合わせをし、ゲームを決め、役割分担をし、当日は自分たちの力で進められるように準備を進めます。6年生のリーダーとしての自覚を高めるとともに、学年を超えたつながりを深めるよい機会にもなりました。当日は、上級生と下級生がペアでゲームコーナーを回る微笑ましい様子も見られました。多くの保護者や地域の皆様にもご参加いただき、ありがとうございました。このように、学校では、学年を超えて異年齢で関わる場面が多くあります。異年齢集団活動は、上級生が下級生に思いやりをもって接したり下級生が上級生の姿にあこがれ、自分が目指す上級生の姿を見つけたりできる活動でもあります。異年齢集団活動の中で育つ子どもたちの姿を意識しながら、そのよさを活かした取組を今後も進めていきたいと思っております。



安心安全で、有意義な冬休みに…

2018年も残すところ引週間余りとなりました。明日から、クリスマス、年末年始など、子どもたちにとって楽しい冬休みが始まります。短い休みではありますが、生活のリズムが乱れやすく、プレゼントやお年玉などを手にして、物や金銭に対する感覚がルーズになりがちな時期です。正しく判断し、自分の力や生活を高めていけるようご家庭でも、声かけをお願いします。また、この時期は、寒くて天候が悪く室内で過ごす時間も長くなり、それに伴い、ゲームや、PC・スマホなどソーシャルメディアに触れる機会も多くなってくると思います。昨今、子どもがソーシャルメディアに関わるトラブルに巻き込まれる事象もよく聞かれます。ご家庭でも利用状況について把握していただき、ルールを決めたりマナーについて話し合ったりしてみてください。

夏休み前の学校だよりでもお知らせしましたが、学校が休みになると子どもの生活環境が変わります。子どもたちにとっては、休み中は楽しいことばかりではなくて、不安や戸惑いを感じることもあるかもしれません。また、休みが終わる頃や休み明け直後は子どもにとって「大きなプレッシャーや精神的動揺が生じやすい」と指摘されています。ご家庭でも、次のようなことに気を付け、子どもとの関わりを大切にさせていただきますようお願いいたします。

- 発言・行動の変化や体調の変化に敏感になり、そのサインになるべく早く気づくこと。変化に気づいたら、声かけをし、本人の話にできる限り傾聴する。
- 子どもの気持ちを尊重し、共感した上で、その子のことを大切に思ふ気持ちを伝え、見守る。

安心安全で、有意義な楽しい冬休みになるよう願っています。皆様お揃いでよいお年をお迎えください。

校長 内藤 信雄

